

新宮山彦ぐるーぶ第1840回

## 深仙宿避難小屋清掃と登山道整備

◇実施日：平成27年9月27日(日) 曇り時々晴れ  
◇参加者：青木宏充、梶野照雄

26日、19時30分頃に青木さんから電話があり「明日(27日)深仙宿へ行って、ゴミ掃除をしたいが一緒にどうか？」とお誘いを受ける。

突然の申し出であったが、特別予定もないので午前10時半に登山口集合の条件でOKした。

背負子、ゴミ袋、鋸、鎌、電動ドライバーなどを車に積み込む。朝、車に乗って財布を見ると、千円札が1枚だけ。ズボンのポケットには小銭が800円程、まあ何とかなるだろうとスタートする。



出発



早速、斜木の処理



八尾の方と話す

五條市のイオンで弁当とお茶を購入、登山口には10時25分

に到着した。

登山口に車は10台程、お天気があまり良くないせいか、思ったよりも登山者は少ないようだ。朝8時半まで雨が降っていたらしい。

10時40分に歩き始める。5分程登ると頭に当たるシャクナゲの斜木があった。鋸で切除する。

古田ノ森手前で、先行していた登山者から話しかけられる。

昨年9月、楊枝ノ宿までの倒木処理の際、楊枝ノ宿小屋で同宿した大阪八尾の人で、青木さんを覚えていて声をかけてくださった。

いつものパターンであるが、青木さんはよく覚えていないようで、しばらく話しているうちに、杉本さんに送ってもらった話が出て、ようやく思い出したようだった。

今日は深仙宿、明日は持経宿で宿泊予定と話されたので、新しくなった持経宿小屋をしっかりとPRした。

1

山頂まで行く八尾の方と千丈平で別れ、深仙宿を目指す。

途中、若者2名に出会う。深仙宿のゴミ回収に行くことを説明すると「ゴミが小屋前に散乱していたので、小屋内に集めて、乾燥していた物をザックに入れて持ち帰る途中だ」と話してくれた。ありがたいことで、彼らのような登山者が増えることを願いお礼を言って別れた。

深仙宿到着は、ちょうど13時。すぐに昼食とする。

小屋前の倒木は、松本さんによってきれいに切断処理されていた。



小屋前の倒木処理状況



小屋内に集められたゴミ



袋に詰める



この金具は外した

小屋内で食事をしていて、4名のグループが到着する。奈良県香芝市の方がリーダーで、赤井谷から登ってきたそうだ。

このグループとは帰り道で相前後するが、リーダーの方は十津川村などとも交流があるらしく、観光振興課課長もご存じで、いろいろお話しさせていただいた。

持経宿改築についても、スマホの写真をお見せしてPRした。

昼食後、ゴミの持ち帰り準備と小屋内の清掃、それと「外からカギをかけられたら、内側からドアを開けることができない」と不評だった金具を取り外す。取り外した金具は、棚の上に残した。

「コーヒー飲むか？」と青木さんが言うが、ゴミ持ち帰りのため持ってきた水を捨ててしまったため、香水水まで状況確認も兼ねて水汲みに行く。水はポタポタではなく、スーッと流れ落ちていた。



最初にあった掛け金を残した



香水水の状況

深仙小屋での作業を終え、14時丁度に千丈平へ向かった。笹を刈りながらでは時間がかかる。千丈平に着いたのは16時だった。



笹を刈りながら登る 刈った後、刈り残しもあるが道は判りやすくなった

千丈平からは快調に下る。途中で3か所、倒木の切除を行った。そのうちの一本は直径15cmのブナで、倒れて間もなく、まだ生木なので手鋸での切断は大汗をかいた。2人で15分かかった。

登山口に着いたのは18時、もう暗くなり始めていた。



1

ブナ倒木の切除

手鋸では時間がかかる

ようやく切断

奇しくも、昨年の9月27日も深仙宿を訪れていた。ドアの取り換え作業を見学し、ほんの少しお手伝いをさせていただいた。帰宅してからテレビで御嶽山の噴火を知り、パソコンを立ち上げると、安否確認のメールが3通。翌朝には「生きてるか？」と電話が2本。しばらく会っていない友人もいたが、こんな時に思いだして連絡をくれることに、少しうれしかったことを覚えている。

御嶽山噴火で心ならずも命を落とされた方々のご冥福をお祈りします。

### 行動タイム

9月27日(日)

堺 7:30→10:25 登山口 10:40→11:55 古田ノ森→13:00 深  
仙宿 14:00→16:00 千丈平→18:00 登山口 18:20→堺 21:  
20 3

(記 梶野)